

月刊 しばうら

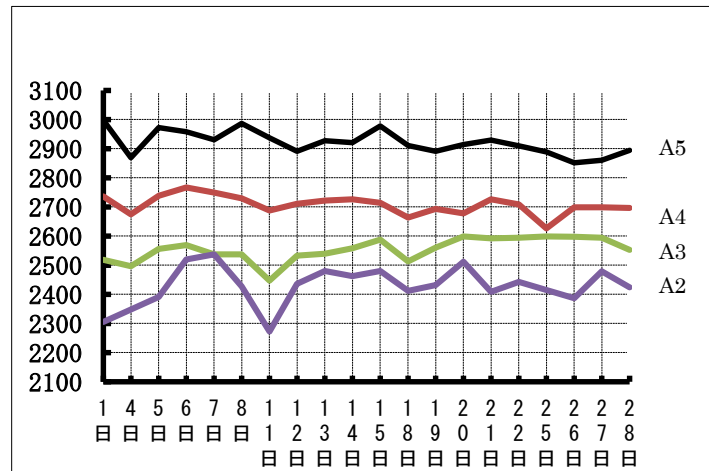
2016年5月号

大動物事業部

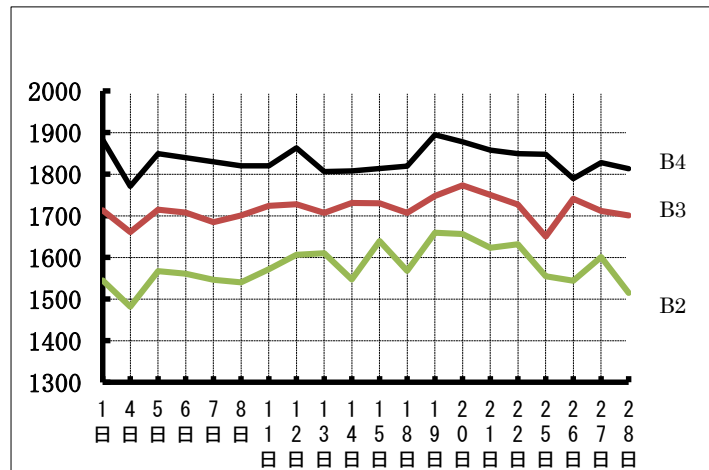
< 4月の相場動向 >

4月の牛枝肉相場は、和牛去勢 A5 が前月比 83 円高、同 A4 が 97 円高、同 A3 が 91 円高、同 A2 が 144 円高となり年明けから緩やかな下降基調をみせてきた枝肉相場もイベント需要や月末からの大型連休に向けての手当買いなどで、いずれの等級も一段高の強気な相場展開となった。交雑牛も同様で、下げていた乳牛のスソ物とも引き合いが強まり上昇基調の動きとなった。

和牛去勢 日別相場表 (4月)



交雑去勢 日別相場表 (4月)



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,924 円	117.9%	102.9%
A4 2,716 円	117.5%	103.7%
A3 2,560 円	118.2%	103.7%
A2 2,442 円	121.0%	106.3%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,839 円	112.6%	102.5%
B3 1,718 円	108.3%	104.0%
B2 1,583 円	99.9%	104.0%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 1,156 円		
B2 1,123 円	119.5%	115.4%

< 5月の全国出荷頭数予測 >

農水省統計部が発表した2月の食肉流通統計による全国と畜頭数は、前年同月比 3.5%減の 8万 2,390 頭となった。和牛は 5.9%減の 3万 4,319 頭、交雑種は 1.7%減の 1万 7,469 頭、乳用種は 0.8%減の 2万 9,813 頭と、いずれも前年実績を下回った。

農畜産業振興機構による 5 月の出荷予測頭数は、和牛が前年割りで交雑種と乳用種の増加が見込まれることから、前年比 0.2%微増の 8万 3,500 頭と予測している。品種別にみると和牛は 2.3%減の 3万 4,900 頭、交雑種は 6.3%増の 1万 8,200 頭、乳用種は 0.3%増の 2万 9,100 頭としている。

東京食肉市場の5月と畜頭数は、7,000 頭を予定している。

< 5月の牛枝肉相場見通し >

5月の枝肉相場は、年度最初の最需要期であるGWの消費動向次第で、その後の枝肉相場にも影響を及ぼすと思われるが、和牛については出荷頭数の減少傾向が継続しており安定した枝肉相場が見込まれる。増加傾向にある交雑牛は、和牛の価格に比べ割安感のある物への流れは変わっておらず、引き合いが強まる可能性があるが末端消費が鈍れば弱もちあいから小幅安の相場展開が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800~2,900	B4	1,750~1,850
A4	2,650~2,750	B3	1,650~1,750
A3	2,500~2,550	B2	1,500~1,600
A2	2,350~2,450		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,050~1,100		

< 5月の牛肉輸入量予測 >

財務省の貿易統計によると、3月の輸入牛肉通関量は、前年同月比 3.0%増の 3万 6,167 t と前年を上回り、前月比でも約 3,000 t の増加となった。チルドは 0.2%減の 1万 7,143 t、フローズンは 6.0%増の 1万 9,024 t となった。チルドはほぼ前年並みとなり、豪州産は引き続き現地パッカーの長期休業の影響で輸入量も 1 万 t を割込み、米国産は現地相場の安定と円高に振れたこともあって増加となった。フローズンは米国産が 27.2%増と相場高で大きく減少した前年を上回ったことで、大きく増加となった。農畜産業振興機構の予測による 5 月の牛肉輸入数量は、前年比 13.5%減の 3万 6,500t と予測している。チルドは前年の現地相場高で米国産の輸入量が減少した反動もあって、前年同月をかなり上回り 107.0%増の 1万 7,000t、フローズンは、前月同様に前年の関税率の引き下げを踏まえた通関繰り延べにより数量が大幅に増加した反動もあり、74.0%減の 1万 9,500 t と前年同月を大幅に下回ると予測している。

輸入牛肉通関量	3月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	9,504	10,439	91.0%
	米国	6,879	5,775	119.1%
	その他	760	959	79.2%
	合計	17,143	17,173	99.8%
フローズン	豪州	6,867	7,719	89.0%
	米国	9,609	7,556	127.2%
	その他	2,548	2,680	95.1%
	合計	19,024	17,955	106.0%

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、3月の全国と畜頭数は 144 万 4,869 頭 (前年同月比 105.7%) となり前年を上回る頭数であった。

また、3月分の豚肉通関実績は、総量で 7万 2,042t (前年同月比 110.1%) と前年より上回った。うちチルドが 3万 2,075 t (同 110.6%) と増加し、内訳は米国が 1万 9,169 t (同 130.8%)、カナダは 1万 1,945 t (同 96.7%) に減少、メキシコが 959 t (同 48.9%) と大幅減。フローズンは 3万 9,967 t (同 109.7%) と前年を上回り、デンマークが 9,577 t (同 122.1%)、米国が 3,437 t (同 50.6%)、カナダが 3,281 t (同 56.7%) であった。

< 4月の豚取引の推移 >

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	67,100	478	452	919
4日	65,500	498	478	586
5日	67,100	493	467	1001
6日	63,500	481	460	741
7日	67,900	483	454	676
8日	67,100	470	448	891

上旬の全国と畜頭数は 1日あたり 6万 6,000 頭と前年を上回る頭数であった。当市場においても平均 800 頭と前年を上回る上場頭数であった。花見や新入学・入社と需要の期待が高まる時期を迎え、学校給食の再開なども重なり、先月から引き続きヒレの動きが好調な中、スソ物相場が徐々に上がってきた。一方、バラの動きは重かった。当市場上物価格は 480 円前後を維持する展開となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	66,800	491	452	618
12日	69,100	479	450	914
13日	61,800	457	430	782
14日	68,500	478	450	775
15日	67,900	484	453	732
18日	62,300	530	507	589
19日	69,400	507	486	1044

中旬の全国と畜頭数も前年を上回ったが、1日あたり 6万 6,000 頭と 7万頭を割り込んだ。当市場は平均 780 頭とわずかに前年を上回った。徐々に値上がりを見せていたスソ物が、月初めよりも 50 円高で推移。ヒレも大手需要が続いているため好調。しかし輸入物チルド・フローズンともに、通関が順調に切れていることもあり動きがにぶく、国産コース・肩コースの足を引っ張る展開となった。連休前の手当てで、ようやくバラの動きが回復をみせたが相場は横ばい。

上物価格は 4 月のほぼ安値から最高値と落ち着かない相場展開となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	65,100	504	468	807
21日	72,300	486	451	1010
22日	73,100	478	446	1097
25日	70,800	477	430	936
26日	73,800	467	443	1080
27日	72,600	456	421	907
28日	79,100	507	476	922

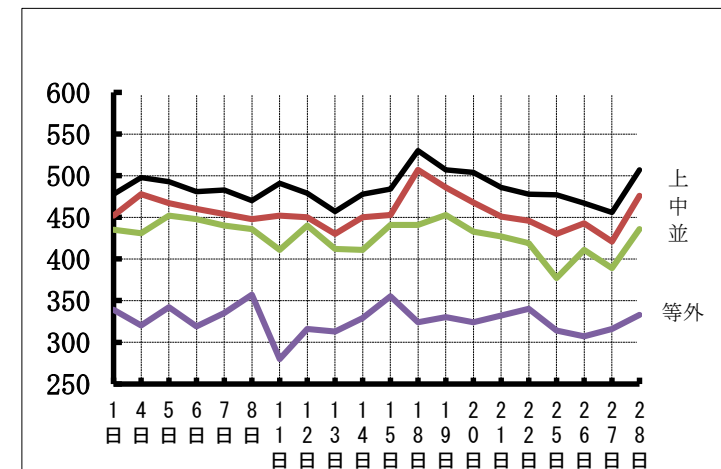
下旬の全国と畜頭数は、平均 7万 2,400 頭と前年を大きく上回り、21日以降は 7万頭台で推移した。当市場の上場頭数は 960 頭と、前年並みであった。

いよいよGWを直前に控え、ようやくロイン系とバラの需要が高まったが、相変わらず輸入物が潤沢なため、極端

な値動きはみられなかった。スペアリブがここきて非常にタイトな状況。今年のGWは、一般消費者にとって超大型連休にしやすかったため、国内需要がいまひとつ伸びなかったのでは。

上物価格も 450 円台から 500 円台と揺れ動いた。

豚 日別相場表 (4月)



< 5月の豚枝肉相場見通し >

農水省による 5 月の全国と畜頭数は、133 万 3,000 頭 (前年同月比 107.0%) と予測しており、一日当たりの頭数は約 7万 100 頭である。当市場の 5 月の集荷予定頭数は 1万 5千頭となっており、一日当たりでは約 790 頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による 5 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 6万 3,900 t (前年同月比 93.0%) の予測となっている。内訳はチルドが 2万 4,200 t (同 95.0%)、フローズンは 3万 9,700 t (同 91.0%) の予測である。

また 2月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1万 7,152 t (前年同月比 95.9%)、輸入品は 15万 1,111 t (同 93.6%) となり合計 16万 8,263 t (同 93.8%) となった。推定出回り量は 13万 8,202 t (前年比 106.8%) で前年を上回った。うち国産品は 7万 4,474 t (同 107.8%) 輸入品は 6万 3,727 t (同 105.6%) であった。国内生産量は 7万 4,808 t (同 106.6%) と引き続き前年を上回った。

今月の荷動き状況が 5 月に入っても大きく変化が見られなければ、徐々に全国頭数が減ったとしても極端な高値相場は見込みづらいと思われる。一方、ウデ・モモとスソ物に関しては、国産物に頼らざるを得ない状況がしばらく続きそうなため、相場は底堅い展開になるとと思われる。よって平均上物 520 円 中物 490 円前後を予測する。

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>